

新編水滸畫傳

七編

九

21
875
69



明 嘉 21
875
卷 69

補書佛書醫書國史
繪本手本新古賣買
手遊いふく法なり間
河内屋孫玄衛

後援町三休指西八

河内屋孫玄衛

新編水滸画傳卷之六拾九

東武 高井蘭山公翁 譯編

明治三十二年
十月十日
印刷

○吳學究智とりつく文字縣と紅

新編水滸画傳卷之六拾九
○吳學究智とりつく文字縣と紅
斯く宋江のひは法ゆる率獲列の地よ入ると休ると一月後り送
苗りふん七月半よむりりけ頃檀列の趙樞密の使者文書と
持來りく云朝廷今治去と傳しついでと傳後かきりく入るもまよ
まよと記し征伐とくまよと連し來る宋江文書と好く吳用と
高儀し先玉田縣よむく盧俊義が兵と會合し軍馬と練軍
衆と視へる後再び出勢せんとまよめたるかゝる処よ遼王より使者
到來せりと報しければ宋江これとぞと出送しけるよ彼使者も
歐陽侍郎かり。宋江好く使者と延し後堂よ入一禮己よ早し

るが室江之問く侍即今日又來降とあるものなり。何木の奉平ありや。侍即云我遼王深く將軍と慕ひし人。將軍の音く啼喚しつるが遼王必と將軍と必く候ふ封じしべし。將軍よく飯頃しつるひく遼王渴渇の息ひと息あり人室江言く侍即前日来りて来と密使ありし時百八人の去已ふし奉を曉し。半はあくる美知せの来り侍即と共よけ処と出く幽列よむる副先鋒盧俊義を引く追蒐へ。我り盧俊義と戦り必は旧日の情と傷ん侍即り何まの地の城をりせ。暫く我を借しり。盧俊義が追來し時我先を城へ入る。軍馬と屯し宜く好意と必く彼と戦へ。彼り後計を必く戦んまは侍即の言をいふ。歐陽侍即これとせしむるは收ひ即ち言く云けらる我霸州に

二ツの関あり一ツは益津関と号し。あ辺に於險し。とて山々中央は唯一の路あり。一ツは文字縣と号し。とて西方は皆聳へたる險山なり。関口とてぬまの川を縣路なり。けに之取の霸州の要害とて將軍り盧俊義と避りりんとす。いけ処より霸州城へ入り。霸州とある人。遼王の御舅康里定安とて大將を將軍。霸州城へ入り。いあ。彼康里定安と共小城中に在り。初聲を窺ひし人室江を告り。得くか。の如く早速人馬を馳り。先春扇と邀り。めん中の憂と除く。後奉を宣し。行の可からんと。決り妻し。議と定めし。るが歐陽侍即大よ收ひ。往く。遂に室江は別を回し。け日室江の使者と馳り。盧俊義兵用朱武と招き。霸州と攻めんとす。計と議定し。しり。盧俊義の計とせしむるは

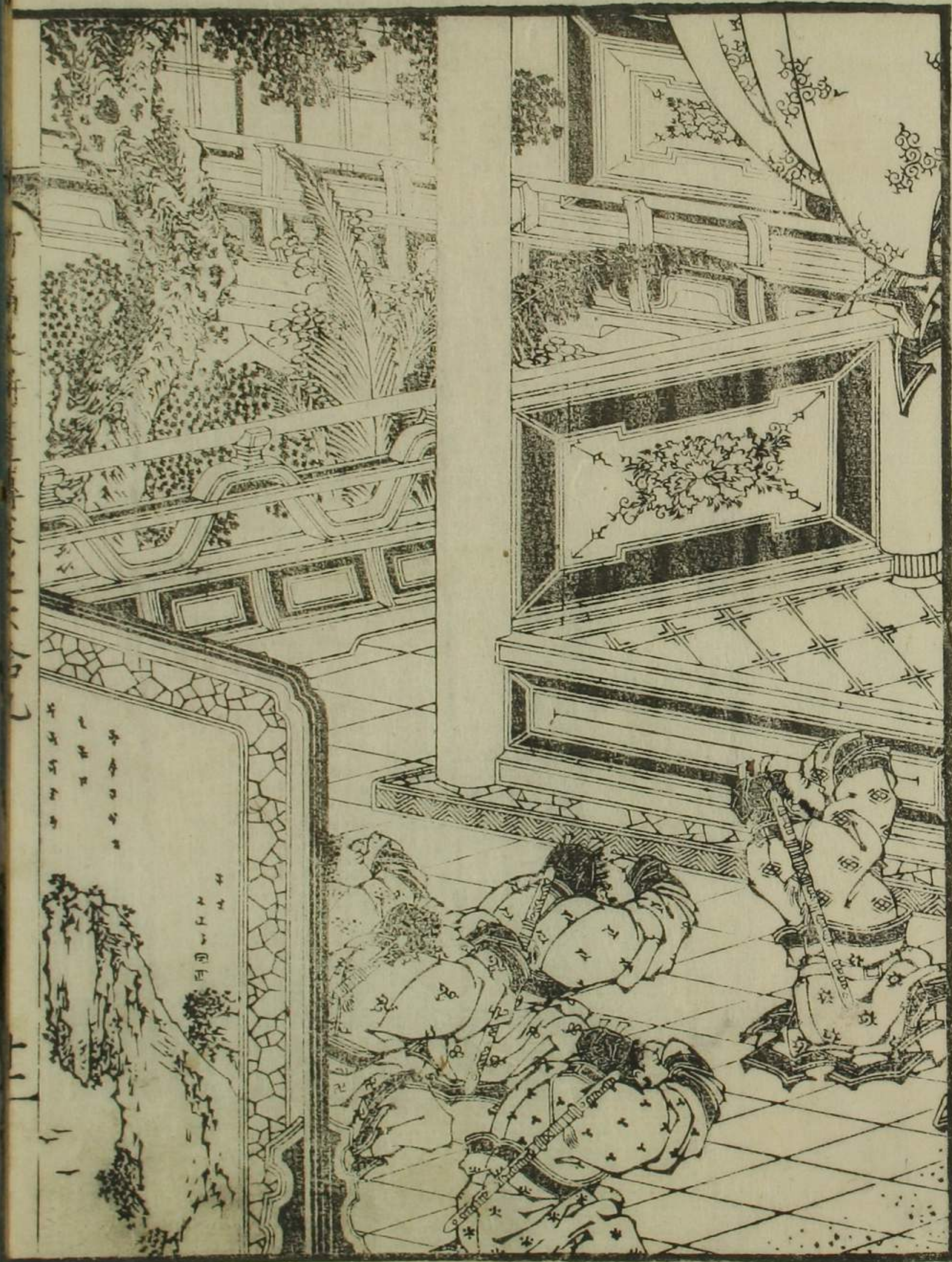
る。兵用朱武。暗に諸將小觸りかゝの如し。かゝの如し。と計と授け
 る。宜し。く。ゆい。し。心。扱。宋。江。小。お。從。人。人。林。冲。善。業。朱。武。刘。唐。
 穆。弘。李。達。樊。瑞。鮑。旭。項。充。李。哀。呂。方。郭。盛。孔。明。孔。亮。孫。權。十。五。
 人。將。帥。二。万。の。軍。馬。と。引。一。歐。陽。侍。郎。が。來。り。迎。え。と。待。て。早。
 二。三。日。と。一。け。る。処。歐。陽。侍。郎。已。不。至。く。宋。江。は。對。面。一。我。遼。王。
 將軍。の。御。帳。の。人。と。と。笑。う。ひ。ひ。と。感。恨。斜。に。い。は。す。の。う。ら。け。
 將軍。已。親。方。小。引。ひ。う。上。の。宋。の。兵。幾。子。も。來。る。ぞ。怕。る。り。
 只。以。遼。の。国。小。多。と。物。と。い。ひ。勇。兵。猛。將。か。り。お。軍。を。族。と。迎。へ。と。
 ま。ん。と。是。又。安。堵。し。し。之。霸。州。城。小。入。り。人。我。自。人。と。弛。く。貴。
 族。と。迎。せ。ば。對。面。か。う。う。め。ん。宋。江。は。大。に。收。び。宋。江。一。日。も。早。
 く。親。方。は。集。り。ん。と。我。引。ま。り。ば。何。れ。の。日。我。と。迎。へ。り。ん。や。歐。陽。侍。

郎。が。威。を。か。る。上。の。別。今。會。お。知。ば。大。に。可。な。う。ん。と。即。時。三。軍。
 小。号。令。と。傳。へ。ける。け。日。會。方。小。引。ひ。城。の。西。門。を。突。き。歐。陽。侍。郎。は。
 數。十。緒。と。引。く。ま。ん。ま。の。物。自。ら。の。案。内。に。宋。江。は。人。を。と。引。
 後。に。馳。出。物。莫。二。十。里。離。り。さ。け。る。処。宋。江。は。上。に。ま。り。大。に。嘆。じ。
 く。い。く。我。已。小。軍。隊。兵。用。と。物。一。共。遼。王。小。離。ら。ん。と。合。
 せ。ら。ふ。ま。あ。は。怪。て。立。出。し。ま。し。う。具。用。と。と。念。れ。り。あ。く。人。と。
 せ。し。く。迎。へ。め。可。な。う。ん。と。使。を。遣。け。る。ふ。歐。陽。侍。郎。
 先。益。津。軍。小。引。ひ。大。青。衣。小。引。ひ。門。を。突。け。と。呼。び。し。う。宋。江。と。守。る。軍。
 士。亦。歐。陽。侍。郎。と。合。し。ま。り。大。に。驚。き。宋。江。と。突。け。る。歐。陽。侍。郎。
 とも。宋。江。を。引。ひ。宋。中。小。入。り。人。は。霸。州。城。小。至。り。如。ふ。夜。已。不。更。
 の。左。側。か。り。時。は。国。舅。里。定。安。か。と。報。し。ける。抑。け。康。里。定。安。は。遼。

と欲く故と書る格の四は懸し入人や。又統軍の云は彼己は我三のめ
 大那と打破り。身は志落く。我をとりて。我の我。我の我。
 引く彼と我は。彼は我の我。我の我。我の我。我の我。
 落入るは。我の我。我の我。我の我。我の我。我の我。
 之は。我の我。我の我。我の我。我の我。我の我。
 へ。又統軍。我の我。我の我。我の我。我の我。我の我。
 一。是と三。我の我。我の我。我の我。我の我。我の我。
 覇州。蘇州。本。の。所。と。あ。し。む。又。統。軍。あ。等。よ。合。し。て。は。汝。あ。人
 作。く。故。や。一。故。と。懸。別。の。境。よ。引。入。下。我。は。我。自。針。を。以。て。故。と
 故。ん。と。己。ふ。者。儀。と。ま。あ。け。り。我。軍。は。覇。州。よ。ま。ま。く。堅。壘。よ。城。と。も
 り。我。は。我。の。明。の。者。来。り。我。は。我。の。故。己。は。蘇。州。城。よ。ま。あ。来。る。あ。く

我ま。い。ち。ら。わ。ん。軍。兵。と。出。く。蘇。州。と。救。り。ん。や。軍。は。我。己。よ。来。り。く
 蘇。州。と。攻。る。な。り。ハ。我。軍。は。け。機。ふ。あ。し。蘇。州。と。あ。へ。く。之。蘇。州。は。池。く
 盧。俊。義。と。云。と。知。り。合。せ。ん。と。遂。に。二。軍。は。号。令。と。傳。へ。即。ち。覇。州。城
 と。打。出。し。て。我。軍。は。蘇。州。の。大。將。が。折。と。云。ハ。又。統。軍。軍。を。分。ち。て。我。と。し。て
 覇。州。城。に。攻。め。る。事。途。お。於。く。某。江。に。入。る。は。世。過。戦。と。傳。け。る。傳。に
 又。合。あ。り。あ。り。さ。り。ふ。が。折。大。將。は。逃。走。る。事。あ。り。わ。く。これ。と。逃
 げ。え。ん。と。收。め。け。り。又。又。折。り。の。才。が。あ。り。我。軍。は。蘇。州。に。推。高
 呼。延。灼。と。戦。く。故。を。せ。り。呼。延。灼。又。これ。と。逃。び。引。回。り。某。江。に。入
 屋。俊。義。と。云。合。し。て。蘇。州。と。知。ん。事。と。由。儀。は。是。用。未。武。友。人
 が。蘇。州。の。故。を。兩。橋。よ。多。つ。く。事。あ。る。ハ。必。ず。我。を。誘。り。針。と。云。え
 たり。之。將。く。と。云。と。是。一。く。故。の。知。静。と。傳。い。り。人。屋。俊。義。が。云。故。故

新編水滸畫傳卷之六十八
 十



新編水滸傳卷之六拾九

兀顏遼王
 諫歐陽
 死之
 審ひ

つら小龍く二軍とをめぐ逐し園と衝破く。山の辺より退きし人
 影と列の人をよみあつる。唐僧義木十二人の所飲亦小龍の重
 る。やうさうさうしう六宗江中おきと懸へ。翌日未明お林沖呼
 物奉明。唐僧曰人とを。唐僧義と存し。林沖ら五人の太
 口方おられ。終日尋ぐれども。早と消息と。波に。同しう。宋江
 並徳と添列九天玄女の籤と。知く。ト。う。お。十。分。出。て。わ。さ
 りり。宋江法お對して。唐僧。今日を同く。さ。う。必。然。出。法。の
 地。お。入。る。急。ぐ。れ。と。救。ひ。お。合。せ。ん。と。終。解。松
 解。室。と。獵。人。の。取。お。立。世。洞。を。と。搜。う。め。又。時。迂。不。勇。夜。急。後
 曹。正。未。口。人。と。口。方。小。龍。消。息。と。お。め。む。解。松。解。法。と。虎。の。皮。の
 衣。と。あ。り。て。獵。人。の。取。お。粧。ひ。お。ま。深。山。よ。入。く。洞。を。と。搜。し。日。と。早

其。昏。お。あ。り。し。れ。人。青。さ。ふ。な。り。けり。解。松。解。室。又。數。座。の。山。と
 續。く。雪。く。り。る。け。夜。月。色。縁。繩。と。明。か。さ。り。し。解。松
 火。と。お。く。火。把。と。懸。え。ん。と。知。達。對。向。の。山。の。傍。お。松。の。光。と。り。れ。い
 解。室。が。玄。燈。の。光。お。知。必。人。家。お。り。我。們。先。使。知。を。往。く。飯。と。求。む
 べ。と。と。あ。人。遂。お。松。と。屋。と。存。あり。約。莫。一。里。傳。り。終。り。お。果。し。く
 一。軒。の。飯。を。あ。り。解。松。解。室。自。く。戸。と。推。開。て。因。と。ん。る。お。松。の。り。よ
 一。人。の。老。女。困。を。せ。り。解。松。兄。弟。老。女。が。茶。を。お。と。お。と。せ。り。い。ん
 老。女。の。い。し。我。と。唯。畔。お。り。同。く。う。と。こ。と。お。ひ。つ。れ。汝。お。人。の。原。印。と
 の。地。の。獵。人。な。れ。ば。知。又。お。り。め。や。解。松。が。玄。と。あ。の。山。東。の。お。を。て
 原。未。お。獵。人。な。り。け。り。け。お。ま。來。く。唐。僧。を。な。け。る。知。今。を。礼
 の。時。節。と。唐。僧。お。本。錢。と。失。ひ。己。お。湯。合。お。乃。く。お。深。く。山。中

小入く野味解魂のと赤んと飲しおのけ不迷くけ辺にむねり
 ぐん老女一夜の宿と偽りく老女が云宿と借人といと易し我あ人け
 梓も同じく穽人なり。逐付回りひりん皆く安座しと待り人我級と
 個へ是もくおあへく解法足牙それと安座しは収びり己うう
 事時ううううう知よあ人の穽人麻と挑く回りりれい老女也遠
 く云らる汝あ人せ麻と却しけあ人の客は相人せよ彼穽人け
 云とすく解法解室おわく人判同く云らる半客あ人の事
 く叔中おけ知よ事りのく解法足牙奇く言くく洋よ若け
 まの彼あ人が云来く足牙へ代くけ知よ穽穽人判二判ことやあ
 せかり又判一の不孝ううく數年以若く死すし唯一人の母ははえ
 せり穽と營とけけ知ハ汝程あぞ雜うて我門とあもれはは

悪人とのり。汝や足下等い山東より初くけ知よ事り。幸よけ山よ入て
 穽人んじりい為考の人よあけ。然くは美名を知りしあ人解法ん
 事これとすく云今ハ何とる穽人ん。あはあ人い系山東の穽人解
 法解室と中く同胞の足牙のけ間まで梁山泊よりけせは度案
 朝の御教免と云り宋公明遠と攻るふ依く系ああ人もけく此
 怨よおれり。前日の食我よ親弟あ負一應の軍するいも同くうう系
 足牙これと名んがぬ壺よけ山よ入く。あはく穽人ん。梁山泊の豪傑あは
 彼あ人せとすておあひ是りくあ人果く。梁山泊の豪傑あは
 我肯て汝程と教思く。先んと安んく酒と破りんとを判りの麻と
 煮く煮く。懸念は酒と初め盡數遍巡りる知よ判二判三判
 云梁山泊の豪傑あは天よ怒く。及くけけ良民と傷りけ忠義と主と

る。清忠と初め。解法足牙が云来り。幸ひ山地の桶人よ
遇く。盧俊義の消息を知らせり。判二ツ身が知りし。始末具
よ告げぬ。家内安んず。大は。孫を。子。速。異。用。と。結。く。評。儀。事。ら。く
かりけり

○盧俊義が去春石塔の指

この時段系は。石塔。白猪と引く。同りぬ。と。指。ぐ。れ。ぬ。家。内。を。と
安んず。白猪。系。盧俊義。と。結。ぐ。共。に。去。春。石。塔。指。入。ら。ん。今。白猪
一人と引く。其。奇。異。の。事。と。て。速。速。帳。り。入。回。ひ。け。る。不
後。系。後。入。家。々。云。来。石。塔。と。せ。る。山。の。洞。窟。に。至。り。口。を。閉。り
け。り。如。く。山。の。頂。より。結。と。引。く。色。々。る。相。違。ひ。を。逃。け。り。回。急。来。り。あ。人
これと把。結。と。解。つ。れ。ぬ。を。回。り。白猪。出。ひ。ぬ。と。あ。ご。云。の。難。し

さる。白猪。系。そ。して。中。に。入。る。盧。俊。義。と。云。来。り。十。二。人。と。共。に。故。と
逢。く。我。ひ。ひ。し。時。天。氣。候。は。暗。く。日。色。を。合。く。車。を。南。に。さ。り
ま。る。白猪。系。入。り。白猪。と。尋。ね。り。あ。り。し。け。れ。ば。口。面。に。結
く。一。つ。山。を。連。ね。り。只。一。つ。の。洞。窟。に。入。り。し。て。火。を。結。む。ら。う。け
ま。る。法。の。人。を。り。と。懸。崖。の。地。に。至。り。各。賊。を。殺。れ。擧。げ。て。見。え
ら。る。回。急。系。何。れ。と。結。と。引。く。と。云。来。り。結。と。引。く。方。と。色。々。山。の。頂。より
山。の。洞。窟。に。入。り。乃。ら。成。系。後。入。勇。者。人。を。過。て。去。り。結。回。り。ぬ。れ。ぬ
い。家。内。を。安んず。と。云。来。り。盧。俊。義。と。救。ひ。ぬ。人。を。延。び。し。乃。り。法。の
法。年。が。く。賊。死。と。云。来。り。家。内。を。安んず。と。云。来。り。解。法
解。法。と。案。内。者。と。して。結。と。引。く。あ。ら。は。大。拍。の。樹。の。下。に。と。坐。り
此。の。三。軍。小。号。令。を。傳。へ。り。寫。し。て。書。き。し。て。合。し

解珍兄弟
劉二劉三
劉宅
小話
話



新編水滸畫傳卷之六拾九



新編水滸畫傳卷之六拾九

十七

ける供の人も夜を越さざける程の憂へあり。こや山あはぬ梅の太
 栢の樹と迫く重なりけし樹果々々々。散る傘のどくどく。解法解法
 軍さると守て山あはぬ路口よあじし。あつ統軍もとてまゝよ入る
 と列の路とて望むは依ける。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 おれ出款のあつと待掛たり。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 勇と奮高くああ。獅子以林陣とて北へ。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 拵と迫く陰と合色。後二三合戦。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 軍の陣は是とて一日はあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 のまを散く。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 旭景牌の項元。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 乳入も遠くはあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を

遠の兵がまきと散りんとて一層は吐と喊と叫ぶ。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 て左右より突出遠のまきと迫り。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 けひりね。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 これとてあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 りふあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 案のまきとて。あつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 りとあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 してあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 してあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を
 してあつ統軍もあ人の心を牙を華つて海を

か人るとお幾人時左右より並ひ起来り攻り入ると己小約とおま
か統軍自軍と引く幽呂城と出出故のありと待ひけり
ねまのい法ねと共よきと引く幽呂の辺にありらふ其軍究
がえらる。敵り城と出せり。待あへん彼あまを引く城
みお出が必伏努みぞ。我を引り二軍ふちを殺し一軍の兵
いあま幽呂の軍と引く。ある敵とお幾ひ一軍の軍と殺し一軍の兵
左右より二軍の兵とすめ。伏努あへん救復のま速く戦しし。
己小針と定められ。軍の別国宿。宣禁都思文とお述べたの
音あわしめ又呼延物。軍廷珪魏定玉とお述べたの音あ
しめ。各二万餘人とす。あ人の大針と交り。山の後の山後より
出せり。軍のい大軍と引く。を殺し。あらふ幽呂城。ああ
あ

が統軍のいんと。城と出出。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
對に。林仲と引く。城と出出。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
り。ああ。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
み入らず。兵を城と引く。城と出出。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
知る。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
り。ああ。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
みお出。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
これとす。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
同は。軍のい。宣禁都思文とお述べたの
は。軍のい。宣禁都思文とお述べたの

